路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』　　２００３年７月１日発行

露宿

第25号

Rojuku

定価５００円

目次

表紙写真	網本早祐美	
文中写真	岡田知子	
陽炎／てんとうむし	城野昌夫	2
心のゆらぎ	富士森和行	3
祈った季節	中津川あゆみ	5
昨日、今日、明日の足跡	田代猛	7
俳句三首	小一	8
誕生日に際して	いさむ	9
無題	宗春	10
酒を断つ私をみつめて	新酒楽	11
風に浮かれて	ゆげこうすけ	12
五行詩	近松雅之	
地獄のラブレター	金七	13
無題	名無しの権平衛の皆さん	15
世界の在り方他	秋戸空	17
新編・マンモス交番	望月大成(挿し絵も)	21
女・仁侠!!只今　参上!!	後冷泉元嗣	25
失敗して他	名無しの権平衛さん	26
朝太郎の箱船	鈴木克彦(挿し絵も)	27
今日一日	只野酔払	31
句	橘安純	34
画	悔古	35
あかい花	はり師いが丸	37
おきなわ旅日記 ～旅の終わりに～	恩田美代子	38
編集後記		

陽　炎（かげろう）

菜の花
さくら
れんげそう
心平さんの好きな春の訪れです。
おたまじゃくし
めだか
ふな
花や動植物群も
あたたかな光のはーもにを
全体にうけとめながら
生命（いのち）がいぶく

季節が満満と湧きあがりを
はじめたばかりに
ご迷惑ででしょうが
しばらく
〝彩の村〟でおつとめとしましょうか。

―埼玉県比企郡玉川村字玉川にて―
一九九五・四・一〇　二〇：二二

詩集「（森羅万象）旅路のうたもよう」より

城野昌夫

てんとうむし

ぐんまのやまおくに
おかれても
お金もうけに走ろうが
貧しさにたえようが
地球の明日には
かわりがありません
神様でもないのに
ひとがえらそうに
さとそうとすれば
いつわりの輩として
抹殺されるのが
世の常と知るべきである
ひとがひとを食べようと
すれば
けもの以下に
なりさがるのがおちだ
春ともなれば
ななつの星の虫も
　ぐんまのやまおく＝群馬県利根郡片品村
　＊ひとの背中にてんとうむしがとまった
　そのことを拡大してうたにした。

―比企郡玉川村字玉川ある建設会社の宿舎にて―
一九九五・四・二二（ど）くもり

―心のゆらぎ―二十首

富士森和行

入魂をこめし一夜の草稿に尚ゆれ止まぬ軋轢を詠む

新宿に生きる限りはホームレスの存在みずから掲示て行かむ

稀れに見る卯の花も亦落合の湿地にふさわし梅雨となり行く

新型肺炎に揺れる国より取材あり爽やかに昏れる新宿の街

（5／28、新宿大ガード下にて、香港よりの社会報道班より）

恐喝の罠の如き枕辺に不正金融のポケットチュたまる

漸やくに終ひの棲み家へ移りしに人とかゝわる問題の待つ

（5／4、上落合の移転居宅にて）

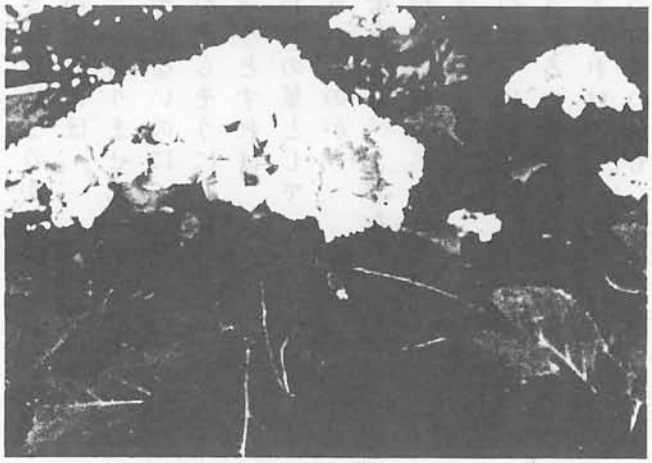
方位除けの南天あおあおと庭隅に移り来し家に吾れ安らげぬ

思ひがけぬ友の訪れ夜の更けて駅まで送る十薬白し

（5／27、佐藤之彦君来訪感謝）

僅かばかりの亡父の郷の不動産ゆれる調停むなし五月盡

（5／29、栃木市家裁調停出頭に思ふ）



放浪の原点見えし「林芙美子」もわれもたゞ唯新宿に拠る

（中井、林芙美子記念館にて）

本棚に活けし芍薬咲き切りて不眠の夜の灯に何おもふ

蛞蝓も蝸牛もなつかし落合のわれの転居の庭にさまよふ

静寂がむしろ吾の仇となりゆく先きざきの移転放浪記

弟か息子の如き同胞に恵まれおれば哀しみに耐ゆ

素通しのステンドグラスにたかだかとさやぐポプラの緑の祈り

（5／25、淀橋教会にて）

失意をば拾ひつゝありこの癒しいつまで続く汚れし胸に

立葵あざやかに咲く町を行く久しき友と乗合ふバスに

（5／29、ケンさんに会ふ、小滝橋車庫にて）

台風の納まる夜の隣人の話合ひ寂しこゝろのゆらぎ

黝々と戦ぐ轉居の南天の庭に嵐の夜は更けて行く

耐ゆるに耐えられず落合の暗らく深き穴にはまりぬ

（5／31、上落合の転居先のトラブル思ふ）

上落合の転居、一ヶ月の心境を詠む

私は、どしゃ降りの雨の中を一人で旅する雀のようだった。もう二度と飛ぶことなど出来ない事をしりながら、濡れた翼をかばうように歩いていた。いつもガラスの破片が頭に刺さっているような痛みを抱えながら。

私が初めて、自分が「依存症」であることを知ったのは、ちょうど一年前の冬のことである。

その頃の私は「依存症」などという言葉さえ知らなかったのだ。

「あなたは依存症です。今日からデーケアに参加してもらいます」担当した医師は何やらカルテに書き込みながら私に告げた。

その医師は、白衣のポケットにボールペンを戻すと「依存症は完治する事の無い病気です、しかし、あなたの気持ち次第では、回復する病気でもあります。頑張ってください」と、静かに私に言った。その医師のいった言葉の意味も理解出来ないままに、通院することに承諾してしまったのである。

私は自分が「アル中」であることは、前々から自覚していた。しかしそれは、大酒飲みとしての自覚であり、アル中＝依存症などとは夢にも思ってはいなかったのだ。

入院してからも、私の自問自答は、来る日もくる日も壊れた蓄音機のように頭の中で回り続けた。「人よりも少し多めに酒を飲む」というだけのことで、何故、俺は精神病院に入らなければならないのだろう。何故、他の気狂い達と同じ病院でなければいけないのか。もし、俺が「酒の呑み過ぎ」だ、と言うのであれば、アルコール専門の病院に入れるべきではないのか？……。しかし、自分の居る病院がアルコール専門のクリニックであることに、私が気付くのに、多くの時は必要としなかった。

「鳥は凍えて小枝から落ちても、自分を哀れんだりしない」と、どこかの国の詩人が書いていたが、私の場合、その小鳥に成ることは不可能であった。

何時も、いつも、「何故」という言葉が、心の隅に黒い小さな染みとして残っていた。やがて、その染みは赤い大きな魂りと成り、薄縁色の膿となって、脳を飛び出し、血流に乗って全身を支配していった。

その結果、私に処方(あたえ)られたものは、安定剤という名の白い小さな薬であった。

その日以来私は、ただ呆然と、外で遊ぶ子供達を見詰める痴呆症の老婆のように、褪せて行く時を孤独に過ごすだけの日々が続いた。

そのような閣の中で、私は思い掛けず「光」と出合ったのであ

る。

クリニックに通い続けて、三ヶ月程経った頃であった。

「何を描いてるの？」

光は、冬だというのに、春風のような爽やかさで、私に尋ねた。

私は、何を描くでもないスケッチブックを片手に、小さな公園のベンチに腰を下ろして、目の前で戯れる鳩を、飽きることもなく眺めていた。

「何も描いてないヨ」

私は白い画面を光に見せて、気恥ずかしさを隠す為に煙草に火を点けた。

暇が有ると、私はいつも公園に来た。しかし、スケッチブックに鉛筆を走らせることはあまり無かったのである。自分の病気について考えていた。いつも「何故」という言葉が頭の中で渦巻いていた。いくら考えても何も解らなかった。嫌気がさす程の強烈な現実が心の中に充満して、答えの出ない疑問が、前頭葉の片隅にアルコールに塗れてころがっていた。

光と出会った日から、私の心の世界は一変した。

暗かった前途は光輝き、背負ったバックまでが軽くなった。もつれていた足はスキップを刻み、重かった唇には歌が戻って来た。

しかし、幸せな日々は永くは続かなかった。光は、冷たい影までも一緒に連れて来たのだった。

ＡＡに行けば「お前達は長続きはしない、依存症同士では悲しい運命を辿る」と、脅かされ、医者は「別れろ」と、私を叱った。

私は反論した。

「依存症」の（症）の字から（やまいだれ）を取り去って、正しく依存し合えばいいのではないか？

ＡＡのステップにも「おおむね、上手く行く」と、書いて有るではないか？

私には、「共依存」という病名が追加された。

どの様に言われても、私は光を手放す気にはなれなかった。それどころか（皆は、私の光に嫉妬しているのだ）と、思うようになっていた。光ばかりを追い求め、周りの事は何も見えなくなって行った。

「このままでは死ぬぞ」と、誰かに言われた。私は「光の為なら死んでもいい」と答えた。だがそれは自分勝手な高慢である、とピックブックが私に教えてくれた。

悩んだ。何も手に付かなくなった。死にたかった。しかし、自分一人死ぬのならともかく（光までも道連れにすることだけは止めよう）

呻吟たる日々が過ぎ、私は決心した。愛の為に全てを捨てようと思った。好きだから遠くに居よう。

決心したその日から、眠れない夜が続いた。薄い布団にくるまって一人寝をする心の中に、又、あの「何故」という言葉が、食べ残しのカレーライスのように、グッチャグチャになって出現した。どのようにすればこの「何故」を払拭出来るのか……判らなかった。

涙は頬を伝って耳に溜まった。熱かった。

寒い朝の陽射しが、小さなベランダに砕ける頃、私は手を合わせ、神に祈っていた。生まれて初めて、自分の全てを神に委ねる決心をした。

おわり

昨日、今日、明日の足跡

田代　猛

五月一〇日　もやい結びの会（学習会）に趣むく（特定非営利活動法人自立生活サポートセンターもやい）。西武新宿新宿線（下落合驛）落合第一センターえ歩む。途中新目白通り前に妙正寺川と云う小さな川が流れてゐる。この川が神田川に繋がり一緒に東京湾に流れる小さな川である。この地域センターには度々訪れてゐる。いつも私はこの妙正寺川のほとりでしばしば想ひにふける。神田川に通ずるこの小さな川「神田川」の歌を思ひおこす。「神田川」かぐや姫（みなみこうせつ）の歌をよみがえさせる「神田川」。神田川周辺の小さな路地裏のアパート一、くつぬぎ（はきものを共同下駄箱にぬいで）二、共同水除　三、共同便所の安アパートの三畳の部屋で若い男女が（女の人は病身）肩を寄せ合ひ御互の愛を確め合ひ、御互の暖かさと優さをさぐり合ひながら、ひっそりと生きてゐる。あの「神田川」の歌詞を……。私の心によみがえさせる。そして寒い夜の日近所の銭湯（公衆浴場）にタオルをえりまき代りにして肩を寄せ合って行く姿、そして男の人が女の人より先に出て、女の人の帰りを待ちながら女の人の洗った髪を優しくなでながらアパートへ帰る姿、妙正寺の川のほとりでそんな「神田川」の歌詞を想ひおこす。私の一瞬の感傷でせうか……。

そして今から趣むく「もやい互助合」の会合で弱い人人が御互に肩の暖さと、手の温もりを大切に大事にして現実の厳しさに負けないで、確かめながら生きて行く事を願い祈りつつとの思ひを胸に、地域センターに一歩一歩と歩む。

人生は前え、前え、更に前え、前えと、歩むも大事だが、ふと立ち止まり、自分の影の姿を見ること必要だと考えます。私はいつも自分の敵は自分自身にあると思って試行錯誤の人生を歩んでゐます。政治の世界では、有事関連法案が衆議院を通過し、経済の社会では、りそな銀行が経営破綻し、公的資金の投入。そして人間の社会ではＳＡＲＳ（新型肺炎）が中國、香港、台湾、で流行し、患者八〇〇〇人　死者六〇〇人以上。人々はその恐怖におののいてゐる現実。暗い、暗い、ニュースが人々の心に投げかけてゐる。

でも七月の太陽が照り輝き、そそぎ、露宿と共に歩んだ（二五号）。そして太陽の照り輝くその大地に一本のたくましい「ひまわり」の花が露宿の前途を、路上にのたうちまわっている人々の明日の未来に向っての明るさと幸を祈り願ひつつ……。

「冬をいきぬき春を呼び込め」東村山、野宿者暴行死事件を風化させないための東村山ふるさと歴史館会合の夕に記す。いろいろと社会的実践の勉強になりました。

五月一八日　夕に記す。

くらしに厳しい自立指導

「働ける年齢だから」「住民票がないから」などが、生活保護を断る理由になるという誤解がある。正確な情報に基づいて國民が議論する必要性を痛感してゐる。生活保護制度は本來貧困の理由は問わず、だれでも、平等に最低限の生活を保障する、社会の解決不可能な問題や社会保障の網の目からこぼれる人たちを全部引き受けるしくみとして出発した。自殺者三万人、ホームレスは三万人、失業者三百数十万人、リストラや銀行の「貸しはがし」も厳しい。そんな中、パニックが起きないのは生活保護制度がまがりなりにも機能してゐるからだ。地方自治体の財政が厳しい中、保護を受ける人が増えると財政破綻を招きかねないという区、県、市、町、村の危機感はわかる。しかし「生活保護の適正な実施」は「保護率を下げる」ことではなく、不正受給をなくすと同時に保護を必要とする人を把握し実際に保護することであるはずだ。今社会全体が「いじめモード」になってゐる。自己責任や規制緩和が言われ、しわ寄せがどんどん弱者にきてゐる。一九六〇年度には保護を受けてゐる五十五％が稼働世帯だったのに〇〇年度には一〇％だと云う。働いても、働いても、生活が苦しい人や働く能力があっても働く場がない人たちが保護されないと、どうなるか、考えて欲しい。

厚生労働省は生活保護を年金や医療、雇用保険など社会保障全体の中でどう位置づけるか議論を提起すべきだとつくづく思う。弱者の一人として、人間として痛感する。生活保護行政は人間の命を預かってゐる仕事です。日本の福祉は申請主義だ、しかし眞の生活困窮者の「声なき叫び」をキャッチし、人間が人間として生きる「声なき叫び」に耳をかたむけ眞の福祉行政をと……叫び祈り願ひたい。

五月二十四日

櫻惜し、葉櫻哀しき緑美し
我の人生いつも駆足で過ぐ

俳句三首

小一

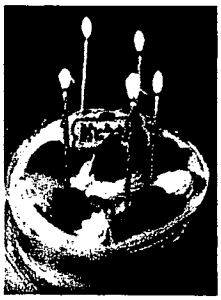
風去りて　椿一本
花二輪

朝もやに　心静かに
はれを待つ

人しれず　我が身ほろぼす
のじゅくかな

「誕生日に際して」

いさむ



妻や子が　祝ってくれた　誕生日
あの日の我れは　良き父だった

自分でも思っても夢でさえも見なかった七十六才の誕生日を迎えた。

何才になろうと生命の続く限りは、今更記載すべきではないが、誕生日を迎える孤独なる我れも過去には楽しい家庭生活があつた。

あの日の家族の笑顔「父ちゃん　おめでとう」と互ひに口を合はせ　プレゼントをくれた。　あの日の思ひ出が脳裏から走馬燈の如しに頭の中をかけめぐる。私の頬に涙がにじむ。

その妻子は、私から去っていった。

私の腰痛は少し良くなつたと思うとつい無理をする。又、腰痛、現在は病院と介護だけの日常だ。実に淋しくてやるせない。今は誰一人としておめでとう　と声をかけてくれるすべもない。コンビニで赤飯を買い、自分だけの夜、赤飯の一粒の味がほろにがい感触がする。　天国の妻子に　今日まで生き長らえた事を　有難たう　と心から……

過去しのび　己れが歩んだ　修羅の道
罪ほろぼしと　宿命転換

私はこの日に刻んで自分が歩いてきた道を振り返える時、青春時代とは無縁と、無駄な年を過ごしてきた月日を、くやまれてならない。娑婆の移り変わりと浮き世の風の冷たさに、時代遅れの身があわれにと思う。

これも誰一人悪くはない。自分自身のひがみであり、宿命である。これから何年生きるか　明日　いや一分先地上からこの身は消滅するか解らない。

これからの余生を大切にして瞼を閉じその瞼の奥に落ち振れ果て、ホームレスの日常生活を無にしてはならない。

苦しい乍ら腹を減らし、寒さに震え乍らも新宿連絡者の心温まる支援により生活保護も受けられた。放浪生活を二度と繰返してはならないと心懸けているものの災難はいつ訪れて来るのか分らず　逆戻りと云う壁にぶつかった時も支援者に二度、三度と手数をかけた。

自重し日々を有意義に過すのが支援者達の恩返しになるのである。

風呂帰り　空にきらめく　北斗七星
肌にしみこむ　我が誕生日

今日は高令者無料入浴日、午後四時から開浴されるが私は腰痛の為、人混みを避け九時頃銭湯にゆく、さっぱりとして帰り道　私はおのずと天をあおいだ。

孤独さをいつしかか忘れ、まるで賑やかな晴れやかな気分だ。

空にきらめく星一つ一つ眺めている内に、あの星の中にも思い出がよみがえって来る。ダンボールを布団代わりに寝ていた時に眺めた星とはまるで違っている。何故か。今更書くまでもないが紙と綿との差だ。

考える事もさまざまに違う。足をゆったりと進ませ乍ら、一つの星を見ては立ち止まり「幸せだなァー」と　又、一つの星を見ると「もっと金が欲しいなァ」と　別の空を見ると「長生き出来て良かったなァ」「ここ迄来たなら八十才を目差さう」。

星は夢と希望を与えてくれる。明日から又来年の誕生日を迎える為、身体をいたわり、早く仲間達や支援者達に会ひ語り合ひ　激まし合ふ事のみが、私には一番大切な念願と云うべきである。今夜は何も考えず　安眠しよう……

七十六才の誕生日を迎えて

五月二十五日

無題

宗春

現在の日本国に於ける最大の問題をあげると、完全失業率5.4%という多い数と、拉致問題の二つと思う。

まず、長引く不況に強いられている都会の路上生活者。「屋根と仕事」と願って、言い続けたスローガンもむなしく、食べることすらままならない状態の中で路上死や病気で苦しんでいる仲間たち、悲しい限りだと感ずる。

もう一つは、去る五月七日国際フォーラムに参加し非常におどろいたことであるが、五千人の会場の所に二万人以上の人が集まり、拉致の問題対しての関心の高さをあらためて感じた。

この拉致問題に対し「拉致はテロ」だとはっきり言えるだろう。

北朝鮮は人類の敵であり人権侵害だという他ない。国際的にも拉致への認識は広がりを見せている。日本政府も積極的に行動を取るべきである。一個人としてそういう気持ちである。拉致被害者家族の子供達の一日も早い解決をと願わずにはいられない。

そして、今の世の中の状況を把握して不況を打破し、より良い暮らしをと願う。もう一度「屋根と仕事」を強く求め続け、失業者の仲間が安心して暮らせる世の中になって行くことを期待する。

酒を断つ私を見つめて

新酒楽

いままでの私は何かにつけ酒を飲んでは雲の流れの如く脱水をし、限界に達し、幻覚、幻聴を起こし、我を忘れて、他人の人に対し悪口やののしる言葉を言いつづけ、人の心や体をきづつけたりしていました。

または幻聴が聞こえて、はだかのままでにげまわったり、何も話していない人になぐりかかったりしていた。

私は自分自身がこわくてなりませんでしたが、アルコール病院、精神科で治療を三ヶ月すごし、やっと自分にもどり、人の立場と言うものを考えられ、たいせつさがわかるようになり、今度こそは、人並みのような生き方になり、よわい人、年より、子供達のためにつくそうと思い、心をいれかえるつもりです。

―新酒楽句―

春風の流れ行く水といっしょに消え去るにがい酒

春さめにたわむれるかなさむい風

今日の時間は明日へのはすの花がさくがごとく

わが人世は花がさく

意見広告

すべての国会議員の皆様へ

全財産を国家へ献金し、生命(いのち)がけ財産がけで国家救済を呼びかけて下さい。私達、平国民も協力します。

五渕四郎　ホームレス研究家

2003.7.1

風に浮かれて

ゆげこうすけ

（一）

松島よいとこ、一度はおいで、
八百八島を、問い行く船の、
今日も汽笛が、鳴り響く。
松尾芭蕉が咳いた、
驚き桃の木、山椒の木、
日本讃景（三景）、ここにあり、
松島や
ああ松島や、松島や
汐のかおりが、プンと来る、
風に浮かれて、ハルランマン。

（二）

松島よいとこ、歴史の湊（港）、
遊覧船から、鎮守が見える、
あれが名代の、瑞巌寺。
人は素朴に、義に熱く、
驚き、桃の木、山椒の木、
古い昔が、見える町、
松島や、
ああ松島や、松島や
汐のかおりが、プンと来る、
風に浮かれて、ハルランマン。

（三）

松島よいとこ、宝の山で、
お魚旨いよ、お酒もイケル、
戻り鰹が、またイケル。
沖に見えるは、金華山、
驚き桃の木、山椒の木、
鹿とお猿の、天国だ、
松島や
ああ松島や、松島や
汐のかおりがプンと来る、
風に浮かれて、ハルランマン。

五行詩

近松　雅之

二十五年

凄いすごい
凄いチャンスを
逃しちまった
二十五年は
後悔するくらい

彼方

石を投げる
意思の海へ
彼方の空へ
遠い約束
忘れるわけない

どう

どうしようもなく
絶対的なもの
どうにかすれば
何とかなるもの
もう、どうにでもなれ

試合開始

睡眠不足に
虚弱体質
持病の心労
抱えてどにかく
ゴングが鳴った

苺

あっちの正しさ
こっちの正義
りんご味の苺のように
訳わかんなく
なればいい

無意味な意味

誰のためにも
ならない仕事
走り出した
ネズミの大群
一日一匹止めるだけ

ニーチェの夜

何もないのに
税出せと
虐める奴らは
盲信者
普通に死ぬなよ

時限人生

生き急いで生きる
先の見えない人生を
先送りして生きる
予測できる明日を
不確定な未来を

地獄のラブレター 「砂の心はつきまじ」

作・金七

地獄のラブレター 「鬼の目にも涙」

作・金七

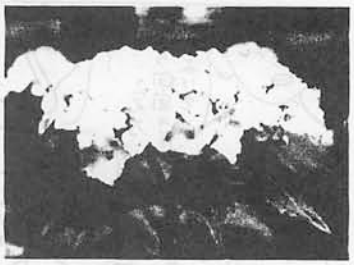
今日会う友だちもたくさんいれば
命の火を吹くカスドは
思いに答った
これはうれしい命の火だ
カスドよなり出せ!!

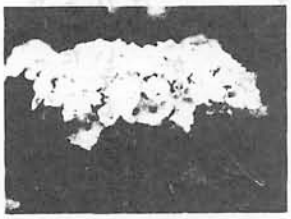
元気よく伝らいていた
この日も命の火を
吹くために

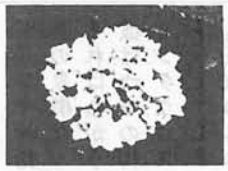
'03. 3. 27
炊き出しのあつさ
カスドの火の熱さではない
命の火を吹く
みんなの熱気だった
この熱気を大切にしよう
これも一つのたたかい
創造のたたかいなのだから
(金)

'03. 4.
今日は朝から
風が吹いた!
すべてを吹きとばす
風が吹いていた
そんな日の炊き出し
カスドの中の火も
吹かれてあおられていた
それでもみんな

'03. 3. 24
時空を越える闘い
過去に捕われて生きるより
現在の自分を捕えて生きる
未来になりたい、
山谷寄せ場が平和運動
天皇反対運動、何でも最下層
階級が始まっていく社会運動
の闘い、真の闘いは沖縄の
寄せ場が、!







封じられた闇

人は生まれたままなのか、3っ子の魂
しい100まで、宿命ってほんにあるのだろうか、だめなのが最初かい
では、努力しても バカな俺が
闇っても、しかし俺だけでもいいかい
少仲間だっている、資本を相手に頑張ろう

過去的な物

悪い言しかいえない居も場
長い人もいるけど自殺してしまう
沖縄の人が自殺する人が多い
このまま生きていてみっともないという、酒を呑み続けて死ぬ人も
川に身投げする、
沖縄に帰って死んだほうがいいという と居も場で死なせてくれ
お願いだから、と言って1ケ月位で死んでしまう。

世界の在り方

'02 11 18

秋戸空

世界は美を求めてさまよう
〈幻想共同〉＝〈キリスト教〉
世界の云う美とは・？と問う・・・

それは現象としての
醜と美の存在でしかないのだけど・・・

醜は見るからに悪であると云う
話（物語）ども世界の価値観がそこから
　しか
始まらなくなってしまった・・・
（どんなに優れた小説にしても、物語に
　しても・・・）

ギリシャ神話のペガーサスが
美の象徴だって・・・？
それはちがうんだ・！
彼は一つの物語として
ミンタウロス（ケンタウロス）
を殺してしまったのだ！
《成敗の名の元に》
今で云えば〈合法的に〉
ミンタウロスは犯罪者にされてしまった
何故なのだ！彼が地上の人間種
どもに（敵）（あた）をしたからなの
　か・？
ミンタウロスは地下に
閉じ込められてしまった
地上から排除されてしまった
それが犯罪（悪）に結びついてしまう
なぜならミンタウロスは
牛の頭を持っている顔だったから・・・か

醜い者は地上にでるな、と云う・
だから地上の人間種どもは
ミンタウロスを地下に
追いやってしまったのだ
出て来れば石を雨の様に降らせる
ように打つけていたのだ！

だからミンタウロスは
地上の人間種どもにしかえしを
始めたのだろう・・・
それを見たペガーサスは〈退治〉
という名の元にミンタウロスを殺し
〈合法的（死刑）殺人〉悠々として
空のかなたえきえた・・・・・

神（非存在）？（存在）？答えは出せな
　いから
どの宗教においても全世界を
幻想共同の裡（うち）に・・・取り込ん
　でしまった
資本支配を入り込ませる為の
道具にされてしまい・・・
宗教の活動とはその手段の
実践でありえるのだ

幻想共同になってしまっていたから
民は〈神〉を恐れた・・・
一つ考えた場合〈神の意志〉
とは何であるのだろうか？
思わせる〈支配の力〉
そうして神〈支配権力〉の
云う事を聞かないとバツが下る・と
民を脅かし民を震え上がらせる・・
〈支配の力〉を保持する！のだ
そこでまず大量殺戦も
入っているのか！大国は！
この裡（なか）で〈文化帝国主義〉は
簡単に民衆文化の裡（うち）にも
入り込んでしまう・・・！

今の時代にもミンタウロスを
排除するイデイオロギーが
全世界をえばってのし歩いている
大国の大規模の殺戦権＝戦争の行使
これは雨が降るようにたえまなく
爆弾を上からも下からも
降らせるその現実を
いやが上にも
目に見せる！世界状況！
〈帝国主義〉の世界・・・！！！

〈法務権力〉と〈真の支配・・・〉

'00 9 16

秋戸空

あまったるい砂糖のように
　あまい、民主主義
戦後民主主義　とろけ去ってしまった
　真の民主主義
我々の舞台はととのった
　さあ動きだせ・！
〈自由〉とは自分勝手に出来る
　〈金儲け〉の事
〈自由主義〉社会とは云うが・・・
〈勝手〉と自由の『はきちがい』
　第何代目の〈天皇〉
アキヒト〈イデオロギー〉
　の最先端・・・・・・
政治は・・・・・・・その
　陰に毒牙をかくしもっている
その毒牙をアジアの人々や
　アラブの人たちに
露骨に毒牙をむきだし・しめす！
　〈入管と云う権力〉
によって殺されてしまった人

この怒り・憤どうりを
どこにぶつけられる・・・！
〈大日本帝国〉の時代に
　戻りつつある・・・・・
朝鮮人を平然と
　殺めていた時代と
同じようになってきた、社会
　今、アジア人やアラブ人を
オーバーした期限を
　あやつって
取り調べと称して
　拷問のような調べがあり
あるアラブ人が殺された
　何人かのアジア人も
〈死亡〉している・・・・・
これに対して何の告発もしない
　〈マスメディア〉
にこやかな顔をして
　〈世間〉に近ずいて
ごまかし〈嘘〉をたれ流す
　その〈ごまかし〉を認めずとも
　認めても
安易な生活が出来る〈世間〉
そのわりをくっているのが
　路上で生きている人々
路上生活者はいったい
　何人殺されただろう〈世間〉

子供達に・・・
〈マスメディア〉はその時だけは
　〈わっ！〉と書きたてるが
次の日には〈皇室〉の
　ニヤケづらを
カメラでとって・・・・・
ヒトラーの「第三帝国」のように・・・
　殺人を公然とは認めはしないが
〈金儲け〉のためなら
　どんな手でも使う
〈政治屋〉どもが
　群がって
それらを喰らっているようだ・・・
　屠殺人の包丁を
前にした小豚の悲鳴の様に・・・
　〈ブレヒト「第三帝国の不安」〉
それをニヤニヤしながら
　笑い顔で
刺身にして喰らう
　〈政治屋〉ども
命令なんかしなくても・・・
　そういう風になってしまう
〈政治屋〉どもの飲み食い
　とはそんなもの・・・
〈大日本帝国〉・・・それは
　袖の裡（なか）かくしとけば
　よい、と〈政治屋〉

〈マスメディア〉はかた目を
つぶって、OKのサイン
学者〈インチキゲンチァはそう
云う事を
口から泡をとばしながら
議論？していてそして
今こそ〈民主主義〉の社会？と
云いたてる、〈マスメディア〉と
一緒になって

〈皇室〉は知らん顔
〈政治屋〉さんたちにまかせておけば
良いように取り計らってくれる・・・と
こういう状況の中でこのヤカラにとって
恐怖するものコワイ物って
何だろう・？・・・・・
こう云う中で私達は闘わねばならない・！
この国に出稼ぎに来ている人たちと
この国の国内にある〈第三世界〉
よせ場に生きている人々も
'貧しき民'皆なでスクラム組んで
〈権力〉の無責任に投げ入れる反目に
抵抗して負けずに立ち向かおう！！

鉱滓（かなぐそ）
〈歴史・連動社会〉
〈グロバリゼイション〉を撃て！
秋戸空 ,00 9 8

社会〈世界〉のすべての
事態は連動している

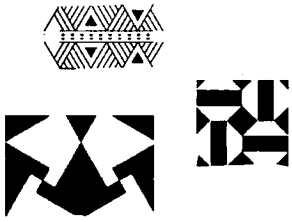
鉱滓（こうし）は働く人々の生命（いのち）と
専厳をすべからく奪って行った
石炭、すず、銅、ダイ、金、
から枝物質まで質を資かえてしまう
世界の支配的ブルジョアジー
金属という物資にまみれた
〈先進国〉
鉱滓（かなぐそ）は溢れだし港の裡（うち）
にも
魚も住めないし・（人々も死んでいった）
草も木も生えないし何も生えなくなっ
て・・
資本（キャピタル）を陰と言い・・・
その陰どもらが言葉（運動）と云う
ことばをあらゆる角度から窒息させて
まぶしく光る〈幻影＝先進国〉
文明をうたい上げる！！

この現象を世の中は〈繁栄〉実は
（荒廃）と読む・地球の破壊・・・
本当は〈金儲けの仕方〉でしかないのに
給与を貰うため世界の民たちは
あらゆる生命を引っこ抜き
無造作に道の脇えと捨て去る？！
〈金儲けの仕方〉がうまくいけば
かえって　路上生活者を造りだす
彼等の生命（いのち）の事など
関係ない・・・と
資本どもは得すらとぼけ通す・・・
路上で生きる人々の生命（いのち）は
いとも簡単に捨て去るように
奪い去っていくのだった・！
この社会は〈繁栄〉と云う
〈金儲けの仕方〉を
実践するようにゲーム機を造り出し
〈何も考えなくさせるように〉・・・
それは人間種（子供たち・・・）の脳
髄を破壊した！
今、若者（少年）たちもゲームの事
だけしか
目に付かなくなり・・・そして〈キタ
ナイ者をこの世からなくす！〉と云う
〈国家〉のイディオロギーがその脳の
裡（うち）を学校教育
もあいまって駆けずりまわる
あらゆる生命（いのち）の事など

考えられなくされてしまう
ゲーム機まみれの〈世間社会〉と
〈受験地獄〉に叩きこまれる
鉱滓（かなぐそ）は文明の残飯・だ！！
その残飯すらも路上生活者には
廻らないし・廻さない社会性・・・
しかし資本家どもはその〈カス〉からも
食欲に〈金〉をさがし回る
探す〈資金〉は湯水のように使うけど・・・
路上で生きる人々にはそういう
〈資金〉は
廻す気すらない、社会がそう云う
〈しくみ〉になってしまった〈政治性〉
資本家どもは仲間内だけで
〈貨幣〉や〈金〉を
回し合っているだけなのだ
！！
だから路上で生きる人々の口え入る物もない
〈金儲けした金で・・・〉
自分らは飲み食いしてしまう！！！
そこでも〈世間〉は冷たい！路上で生きる
人々を
ゴミのようにあつかうようだ！
襲撃の事はこの子供達をいくら悪く
云っただけでは何にもならない・・・
露宿者（仲間たち）の尊厳の事も
生命（いのち）の事も考えられなくされ
てしまい

〈受験地獄〉にはまりこまされ・・・
この社会を造りだしたのは鉱石という
物質をかき集めた結果であり
〈世間〉は露宿生活者の殺人現象をして
このような社会を作り出してしまう・・・
資本家どもはほくそ笑んでいるだろう
こいつが普通の社会と？云えるのか！
〈政治屋〉どもはそのイディオロギー
を排泄し
〈世間〉はそれを素直に実践する
労働力を〈社会支配〉に定影し・
・・・結果的には
小、青年たちの〈犯罪殺人〉は
ゲームとして成立してしまう
そして路上で生きる人々を・・・
（何故こう云う人がこの社会の中
で産みだされて来たのか？・・・）
考える事など教えられてはいない・反面
「なまけもの、のんべいで、はたらかな
い」・と
それを悪いこととし〈悪〉を
やっつける、と
〈正義の味方〉気分を気取りをさせ
嘘の〈正義〉を教育しながら
〈社会支配〉は小、青年たちにゲーム
でも
するような、イディオロギーを提供し
露宿者を襲撃をするように、と・・・
〈正義？の味方〉にしてしまうのだ・！

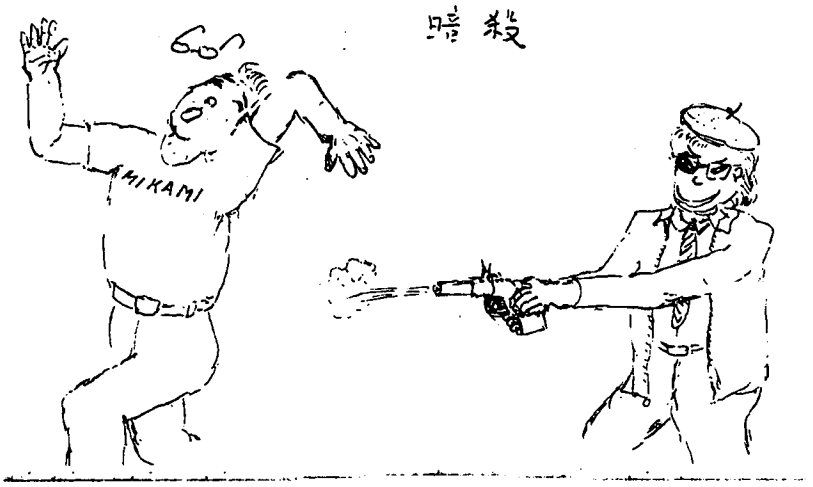
そう云うイディオロギーを広めるのは
〈マスメディア〉の役目だから巨大
な嘘が
仕掛けられていて『これが民主主義な
んです』
と云わしめる
石油、錫（すず）、銅、等・・・を
金儲けの手段〈carency〉（通貨）
に変えてしまい〈グロバリゼイ
ション〉化する
金属と云う物質ではなく〈物資〉に
まみれた〈先進国〉
この連中の排泄物この〈鉱滓〉（かなぐそ）が
分厚く積もり、この上には草も生えないし
魚も住めない海になってしまう・・・・・
〈連動的社会〉何でも連なっているから・・・
・・・・・と云う事さ



新編・マンモス交番

PART6

望月大成



大成

明日から足立一つ家　団地にて
余生のうゝ〔隅田川駅陸橋にて〕
楽隠居して

浅警

それがよし　山のことなど関わらず
何の得なし
君の人生

引越して　まだ一日目　金町の

御来訪あり
ビクリ仰天

いうこととなすことすべて裏表
舌が二枚か
浅警のデカ

馬子

センセーと金町一家がお友だち？
あるわけなきぞ
裏にポケサツ

元刑事

挑発は受けて立つべし　身を引けば
忍者ますゝ
つけ上がりして

大成

ドケチしてついにボロ出し　誰の罪
ガイ者駆込み
金子事務所へ

元刑事

××党　大急がしの選挙戦
署長閣下は
冷や汗をかき

元刑事

政党は使うがよしも当てにせず
票にならねば
対岸の火事

大成

ひょっとしてひょっとするやも　あの時は
お縄寸前
三上追いつめ

元刑事

本名は同じ石原　天地の差
片や馬人（うまじん）
片や都知事は

大成

文学賞　先を越されて悔しきに
又もあいつが
都知事なるとは

鍋の蓋

センセーがまた丶ズルコ　袖袂
シンタロ如きに
一票を入れ

大成

慎ちゃんは文学賞の選者なり
縁起かついで
神棚の上

馬子

センセにはたった一票　あちゃこちゃで
八方美人は
どれがホンモノ

大成

一票を入れる入れぬは隠しごと
社交辞令も
世渡りの内

大成

浅警に仲良しデカの幾たりも
今じゃ左遷で
まるきしのゼロ

元刑事

ダメ警の綾瀬警察　なおひどし
忍者の言いなり
初めからゼロ

大成

花見中　バチリスパイの監視つき
望月大成
サリンまくとて

元刑事

忍者きてやくざ屋宅へ泊りがけ
頂上作戦
まさに本番

大成

お花見にサリンはまかず　御安心
スパイの監視
ほんに無駄骨

乙姫

平成の西行法師は旅仕度
桜前線
花に浮かれて

馬子

緊急は竜宮城へ避難せよ
日本国中
逃げるとこなし

元刑事

今ならば忍者が囲む安全弁
逆の効用
殺し屋はまだ

乙姫

近頃はセンセのお宅　張込まず
引越し当初
デカが二人も

大成

ヤーコきてバチリ監視の包囲網
忍者が裏で
お指図をして

馬子

感謝せよ　助けの神は元刑事
今頃センセ
とうに沈没

大成

世の中は捨てる神ありゃ拾う神
捨てて捨われ
又も捨てられ

馬子

事始め　富士吉田署が捨てる神
拾う神様
何と浅警

大成

ポカサツや　富士吉田署は三上以下
バッグのお宝
知らで通して

鍋の蓋

世田谷の新任署長　サッチョの出
きな臭きかな
何や事ある

元刑事

新署長　どうせおつむは野村並
テロ対策は
ザザもりのザル

乙姫

センセーを義理とニンジョで御洗脳
どかまでアホか
サツの忍者は

大成

スパイ来りゃ逆に洗脳　大成の
怖さを知らぬ
薄ら大バカ

鍋の蓋

その内に団地ぐるみで大騒動
オウム出てけで
センセ逃げ出し

大成

大騒動　手ぐすね待ちも火がつかず
役員婆さん
そっと眇目も

乙姫

センセーを追ん出しすれば元のさや
野村署長は
頭痛鉢巻

元刑事

あらぬなり　忍者野村もそこまでは
ボロをさらすは
サツばかりでは

大成

招待はお巡りなれは喫茶店
忍者格上
レストラン行き

元刑事

当り前　フトコロ具合が段違い
ケチの三上は
別格として

元刑事

大成のパンチ強し　スパイ皆
待遇改善
恵比寿顔して

大成

それでよし　ドケチをすればサツの負け
潤いあれば
すべて円満

大成

ポケサツの微発止まず　ホントなら
悠々自適
食っちゃあ寝して

元刑事

昔なら関わりなしの浅警も
今じゃ忍者の
指揮棒の下

乙姫

センセにはまだ丶ドケチ　許すまじ
泣き寝入りでは
終生の恥

大成

次の手は着々準備　ぬかりなし
民事訴訟で
バチリ一億

乙姫

サッチョには資金たっぷり　スパイには
上前はねて
ほんのお涙

大成

三上見よ　でっぷり肥えてまるで豚
裏金ざくゝ
グルメたっぷり

元刑事
三上級　もしやそれ以下　新顔の
忍者一匹
一ッ家の街

大成
こりもせず次から次とダメ刑事
よりにもよって
三上以下とは

馬子
ひょっとして忍者にあらず　Sマーク
三上級では
役たゝずとて

大成
忍者でもマーク付きでも怖くなし
模範市民に
揚足は無理

大成
本出しの審査合格　まさかゝな
忍者の画策
無事に切抜け

元刑事
まだゝゝぞ　油断をすれば又も罠
裏には裏の
その裏があり

元刑事
お巡りと仲良しするも策の内
忍者が嫌う
にんにくの役

大成
一ッ家のお巡りさんとはお友達
三上、野村は
ガクリンコして

元刑事
人気なき丑三つ時は注意せよ
四〇三(よんまるさん)は
殺し屋の的

大成
一ッ家のお巡りさんがパトロール
ワルサをすれば
すぐ足がつき

都知事
世の中で有害なるは婆あなり
子を生まずして
無駄飯を食い

浅草署長
有害は婆に限らず　馬人(うまじん)の
一代雑種
知事いかゞする

大成
大不況　山はメチャクチャ　ハイパきて
ドヤもテントも
みんな総なめ

金町団
えっ、ワイパ？　下手な駄じゃれは使うなよ
ほうきと言えよ
掃いて捨てるは

大成
野村殿　少しは頭を働かせ
仕掛けた傍から
ザンザモリして

乙姫
お笑い　署長閣下が三上級
これじゃ山谷の
笑い草かな

署長
元刑事　何者なるぞ　探り出せ
もしやマンモス
現職のデカ

スパイ
御安心　あいつは誇大妄想狂
いるわけあらず
みんな小説

87人社・映画!!

『女・侠客!!　只今…参上!!』

（誌上映画？まあ、セリフと主題歌だけですがお茶やコーヒーを召し上がりながら御ゆるりとお楽しみくださいませ!!）

製作・原案・シナリオ・監督
＝後冷泉（御・霊・前？）基嗣
主演!!　高倉・健三郎・藤原・由香
「主題歌!!恋一時雨」
唄　　中条・リリ子
詞・曲　百合咲・かおる

「生まれは？私しゃ捨て子でござんす。捨てられた場所を…生まれた場所と認定します…と、関西は大阪、大阪は堺市の方違神社の近辺と発します。方違い神社の御祭神・神功・皇后の六六六代目と自称なさって居られた、女・博徒・神王・組・初代・組長　神高子―姉御―に拾われて、赤児の時から天才・博徒として養成され、今日に居って居ります。

姓は、中条、名はリリ子　と申します。

今年、私がふつつかながら、神王組・第二代組長を襲名致しました。

若輩者で、男娼ではなく、正真正銘の女性ですので（激笑!!大拍手!!）諸先輩方、今後共、何卒諸般万端―お引き立て、お見知り置かれますよう―お願い申し上げます!!

「恋…時雨!!」

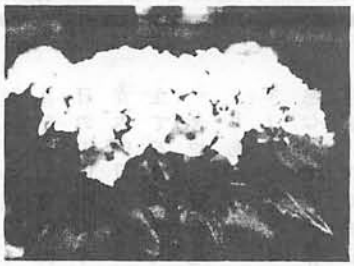
（アクション・宝塚…星組の男装の時代劇スター麗人・日本調・の如き振り付けで唄う事!!）

一、恋の為なら、命も捨てる
啖呵…切ったわ!!
　一年前に。
今じゃ、裏目の、賽の目、稼業。
迷い込んだの、お金の地獄。
顔で笑って、黒子で泣いて、
花嫁人形…涙で抱きしめる。

二、あなたと、夫婦に、なれない…替り、
背中に彫った　愛染明王
あんな…男に、乙女の華を
　突然、無理矢理
　散らされました。
斬った…ハッタ…の白刃の陰で
花嫁…人形…涙で抱きしめる。

故里

友達が出来た山谷で俺俺もホームレス仲間と1緒に沖縄へ行った。帰ってきても誰もがよかったと言う、不平もいわないほんとによかった、こんなにいいのか俺の産まれ島、島の人達は酒呑みが多い、山谷も酒呑みの寄せ場だけど、呑む所がちがえば、いいがしい。



自立と独立 '03.5.27

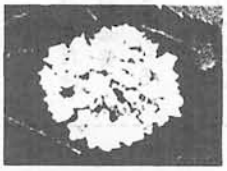
山谷の寄せ場でたきだしをお手伝いしながら、寄せ場に住んでいる人達ホームレスの自立をめざして闘っている、自分自身の自立
沖縄にも日雇組合があり
沖縄独立をめざして、闘っている
俺は頭が悪く仕事もできない
バカだけど空想だけしかできなくなってしまったのか、いや現実を考え、実現をめざして、頑張っていきたい。現在である。

失敗して

酒、酒 酒を呑み原因を酒のせいにしてしまう、弱い人間の問題、やめよう 今日からやめようと思いながらまた呑んでしまう、毎日のくりかえし
寄せ場どうして、なにがいけないのか

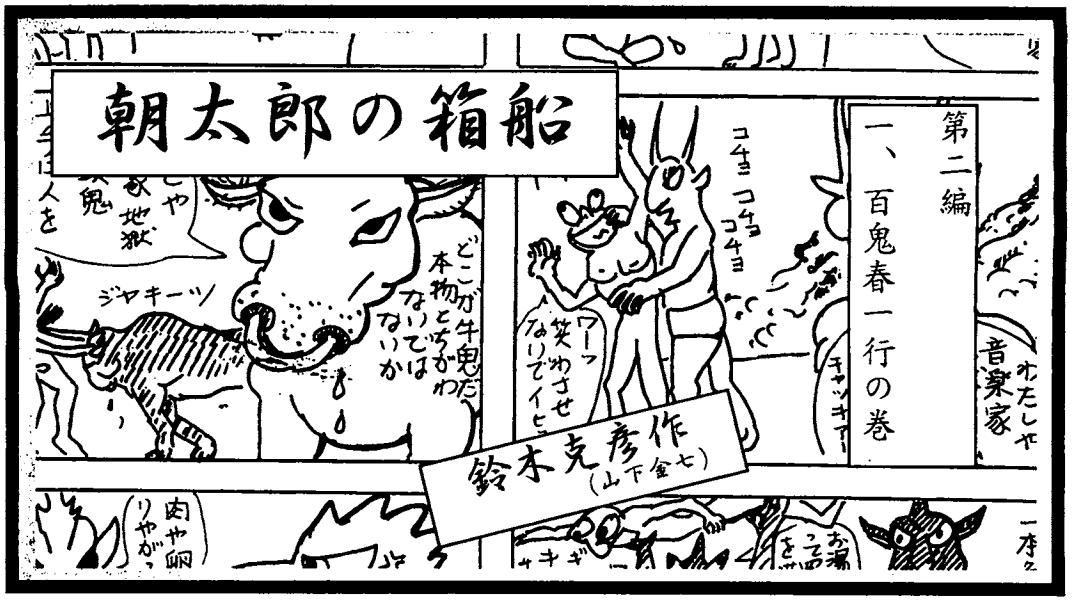
悪い革命 '03.4.27

東京、山谷寄せ場から何かやらなければと思いつつやるのだけど
何もできない俺、酒を呑むことだけしか考えない、頭は悪いし
何もやればいいのか何もできない
頭のいい誰かの後をついていくしかない今の俺。
山谷に頭のいいやつは1人もいないのに



白い自由と赤い闘争

沖縄の文化は日本と違っておくれている。文化の内容、人間も違うのになぜ日本の方式で政治をやっているのか。日本と別れて沖縄独自の政治をやればいいと思っている。たとえおくれていても、



二　よろこび狂う痴人達の章

牢獄暮しの囚人さん　解放されたこの
喜びを初日の出の　狂人国独立記念
日の御感想をオヒトツ
「青天白日の万国狂人旗をかかげよう
立て万国の狂人者　船底にのびてる
者や　壁を見つめる者など引っぱ
りあげろ
きょうの良き日をお祝いするために
悪心爛漫か狂人乱漫なる永遠の小悪魔
宇宙に輝く痴狂の春を謳歌しよう
汽笛を鳴らし鼻をナラシ　礼砲を撃
ちまくれ
SOSもFBIもゲーペーUも打電
しろ
ひかり遍く狂人が世をケケケと祝え
諸人よ」
ネッキスト！
「ハイッ！
狂人は死なず　ただ生きのびるだけ
クレージー殺すにゃ刃物は絶対必要
雨と嵐を四十五日も生きのびる
から」
靴底の詩人ってやつが帝政ロシアにい
たらしい　では船底の詩人さん狂歌
をどうぞ
「海は巨大な魚かな

無数のうろこをきらめかせ
夢まどかなる身の外を
蒼い海に同化して
波のうねりの揺蕩は
よこたえたるその肉体の
永遠にねむれる知性かな
コケ波の光さざめく大魚かな
海は大きな大きな魚かな」
うーむすばらしい　海そのものが大き
な魚であったという　コケの波を走
る舟と人
いい詩ではありませんか　ではひさし
ぶりに㊥ブラクの金坊さん
「オレたちゃ気チガイ部落の住人は
十万トンのクソ船で
島の片輪部落へと行くんだよ
キチガイとカタワ者との集団見合い
ニアイのあいてを探して結ばれる
スゴクえろちっくな不思議な島で
ハゲしく燃やす　ハゲッスチニダ」
紀元は狂気元年元旦　ああ二千五百人
の胸は鳴る―（注）
カンパンではいろんなイベントが始ま
ってイイ弁当も配られる
世はマサニ普狂不二　役人囚人不二
和光同塵ではナイカ
花火が上がり爆竹が鳴って　百来競走

のピストルが鳴って走る人　向うに
パンがあったから走ったのだと人は
言う
ウンチウギウギ　心ワクワク　ラララ
ラー（注）の歌に乗り　ドドンパッ
ドドンパッの踊りまでくり出して
もう消すに消せないカンパンの火事だ
（注）　火事だ火を消せ立川市（注）
なのだ
生涯あらゆる快楽をマンキツさせ　失
なったものを取り戻そうと　みな懸
命だ
中には甲板に出てこられぬ者もある
ご存知色情ババア　もてすぎちゃっ
て　使われすぎちゃって　腰痛おこ
して寝たっきり
さて船橋のマストに掲げた狂人旗の隣
りにスルスルとグレジニア万国旗が
上がって翻る
やはり国名はクレジニアと決まったよ
うだ　わたしならカッパドキヤの古
い国名にちなんでバッカドキアにし
たかった
黙示録よろしく一応パンパカパーンと
ラッパが鳴ったが聖なる羊も出ない
喋らない　土台　羊に聖なるものも
邪なるものもあるものか　種類が違
うだけではないか

みなテキトウだ　総てイイカゲンな世
の中に痴狂人こそ尊い人類　もっと
も尊いも卑しいもないのだけれど―
餓えた者　乾いた者は集まれ　アクマ
の焼き肉羊頭狗肉は配られる　竜頭
蛇肉ならもっと豪華だが　アクマの
肉をクラッテ生命の血を飲め　血は
ショーチューだ
人は食にのみ生くるにアリ　そして発
情―家畜も猛獣も草食動物もそう言っ
ておる　神の言葉など犬も食わない
我ら六十億人の中から選ばれた真の純
粋種　ヒフ病になった者よ　皮膚を
日に当てよ　イヤな事はみな忘れ
ハラを立てずにマラ立てよ　目チャ
チャも日の光で治すのだ
腹イッパイにふくれた腹も　マンポも
広げて日光浴をせい　チンポの虫干
しもせい　ケジラミの卵も取レイ
ケッツののみをピシャリと叩け
ウジウジクヨクヨ止めたがいいぞ　船
底のホルモンスクにつめ込まれ　腐
ってでき上がった奇形脳腫属諸君
楽しいな嬉しいなクレージーにゃ学校
もシケンもケンカもない？（注）
生きて笑って寝て食って　ハメレバ天
国　婆婆で岩小屋に押し込められて
たセムシの少女　晴れた甲板へラへ

ラ笑って歩け
ダボラ吹きフキ　食欲ましませ　アク
マと共にきようがある　アスもある
ノンギャアンホルメルのデタラメ野
郎　ディホルメされた顔客もちの強
情主義者
コイのぼり一家のお出ましだ　臭い国
籍　汚い民族の誇り　腐った言語ポ
イと捨て
アルメニア人もアルガデア人もコプト
人もモンゴル人も　文化を脱ぎ捨て
科学を脱ぎステ　市民権もすてたら
クレジニアにおいで　これから〇〇
が始まるのさあ（注）
〇〇とは狂人国クレジニア建国記念日
式典
船も進むぞ白波たてて　万国クレージ
ーカントリー　クレジニア旗と狂人
旗をなびかせて
汽笛をならせ　太鼓をたたけ　ハラ鼓
を打て　空を見上げ　海原をナガメ
短足族のラインダンスをやってみれ
ホラ見れ　遠く海の彼方に尾ビレで水
面たたく求愛の　黒く巨大なクジラ
の奴の　ドッヂャン　バッヂーン
バドンの音
見よ　B五十二のいなくなった大空に
どこでどう生き残っていたのか　雄々

しくはばたくアホー鳥　お前らも両
手広げて飛んでゆけ　飛べトベアホ
ー夢のせて
ミンクスもリンカーンもノーチラスも
いなくなった大海原に　飛び魚の大
飛行編隊　ブンブン飛び魚ブンと飛
んでいる（注）
この大いなるイツ滴の脳ミソもない白
痴の顔の如く空ランポの大空に　ブ
ォーンブオオーンと汽笛を鳴らし
海を斬ってケタタマシク進むはアホ
ー船
「遠く聴える春の音
かって―金をカッパラッタ人も　隠
れて火遊びをしたエセボーズ
肉屋のおやじも　クツ屋のカカアも
ゴヤが描いたパン屋の貴族家族も
転落エリートも　ヤクザの使い走
りもルンペンも
近く聴ゆる春の潮の音を聞いている
最高裁で夕太郎の実刑判決食らった
元役人さんも　まだパンチがキイて
いる
雲とならばあけぼののーと　命ミジ
カシ狂えよ乙女と考えている人も
ザザーッソソススと波走る　船
の手スリにつかまって　鳥の唐揚げ
骨を噛み砕きつつ　海を見てること

の嬉しみよ」
「世界亡びて狂人あり
海春にしてたタバコをふかし
善人との別れを感じては
石頭も涙降りそそぐ（注）」
ところで何んと　驚いたことには船の
乗客名簿にのってない　記載洩れの
五人の赤子がいたことだった！
何んと深い痴母の愛ではないか　たと
えこの身は狂おうとも、小供は手離
すまいとして連れてきた赤子達
母親が言うことに　赤ン坊は可愛いく
て　丸々としておいしそうだから
きっと狂人に食べられるに違いない
と考えて　船の下に隠して小便をチ
ビリながら育てていたそうだ
偉大なる狂母の愛　あの大狂いの波濤
の中　水金玉をくらいつつ　よく生
かし育ててきたものだときたもんだ
母は偉大な魚カナ
誰が食べようアクマの小らを　晴れに
晴れたる青空の下　幼な子は甲板の
ド真中　パラソルの日陰に這いずり
回る
こんな可愛いい姿を見て　アクマと名
づけた親の気持ちはよく分かる　大
反対した役人達の気持ちは全く分か

らない　彼ら分からぬままにアクマ
の罰受けて　波の間に間にミナくた
ばった
それみろ　小アクマを一目見ようとみ
んなが輪になって　ひきもきらずに
やってきて　ハイハイヨチヨチ姿を
見て大喜びだ　笑っては泣く小さな
生命体をあかずながーむる―　紅匂
うカンパンのコードーモー（注）
パンダを囲む小供のように　白金も黄
金にマサレル宝　珍らしがって新し
がって　朝太郎船（クソブネ）のバラだと称して
狂い喜ぶ
見よ見よ神々よ　人は悪かろうが汚な
かろうが　赤ん坊だけは凄いじゃな
いか　こんな小供を平気で殺す神も
仏もあるものだ
奇妙な小供もいるぞ―目は悪く飛び出
して　足はX脚　手足は細くおまけ
にせむしの少女　脅えて目をしばた
いて
口もきけずにうめくだけ　頭の発育も
良いはずがない　狭い船室の片スミ
にちぢこまって　人を恐れて這って
逃げている―
ああ　助ける人がいなけりゃ生きては
行けぬ　一体誰が助けるか　仏は前
生の悪因業の報いだと言い　神なら

この者を闇の中にホオリ出せと言う
だろう
だがアクマさま　深い愛と慈悲心で
これを救う　アクマの御心をうけつ
いだ悪人痴人らは　自分が受けた苦
しみを　愛の力で世に返してゆく無
欲人　損し人（びと）　闇に投げ出された小
らを拾って育てる
美しい小供や愛らしい羊と共にいるの
が神ならば　世に恵まれぬ　重く深
い因果罪障を背負った小供や動物を
庇っているのが　アクマさま　アク
マさまなくして不幸な人々やミニク
イあひるの子達は育ちません
アクマは慈しみながら耐えながら　神
に目離された幼な子を　悪人痴人を
自分の命にかえても守るのだ　アク
ーメン
ああ　アクマの心はホムべきかな　ア
クーメン　クモルヤ

さて　憤をおさえて遠所を眺むれば
　ウサギの耳長帽子を被ってモチつき
　をしている者もある
嘘をキツツキ餅をついている者もある
まい子の迷子の御老体
あなたのお家はどこですか
名前を聞いても分からない

オウチをキイても分からない
ニヤニヤしてばかりいる御老体
㊥のお巡りさん少しもこまらないで
ワンワンワワン　ワンワンワワン（注）
幸福者もあふれてる　腹イッパイの幸
福　酒を呑む幸福　なまける幸福
脳みそのない幸福　貧乏な幸福　日
光浴する幸福　マンポを開げる幸福
さし入れる幸福
そんな人々の中に朝太郎　人に隠れる
　ようにして物陰から人々を見ている
隠れんぼうする大人のチドンを懐かし
い目付きで見て　何かツブヤイテい
る様子　ひとつ盗聴器でおことばを
聞いてみよう
「チドンガネ　甲板でチョコチョコ隠
　れんぼ　どんなに上手にかくれて
　も　アホーな全身見えてます―（注）
むかし　わたしも縁側の日だまりや
縁の下の薪が積んである所に隠れて
いたものだ
秋の日の庭の垣根にトンボのしっぽ
　を糸でしばって飛ばせていたものだ
トランプを　何度もひっくり返して
　見たり　斜めから覗いたり　内に
　何があるかとはがしてみたり―
びっくり箱を自分で開けて　何回も
　何回もびっくりしていたものだ」

ザザーッ　ソソソと海を切り裂いて十
　万トンのクソの船　二十万トンの汚
　物をガスに変え　クレジニア号は行く
世界は水に亡びても　狂人の笑い声は
高らかに　アクマのトランペットの
音にのって　風に吹かれて世界に流
れる
四十四日の暴風雨　やがて空がワレル
と青空広まって　アクマ笑い声もが
海に空ににじんでゆく

（注）は、引用、書き替えしたもので、必要があれば（著作権などの問題）、これを正式に届ける用意があります。

今日一日

只野酔払

なによりも　愛は桜の　花がいい

ときめきを　花トンネルにて　抱き締める

桜餅　頬張って　また　ほほばって

×××××××××

ゴールデンウィークの初日は、多分、四月二十六日だろう。この日、ロダンはＪＲ西口駅近くの住宅売り出し現場で退屈し切っていた。

去年は届かなかった郵便物がなんとか届くようになってきた。四月の中頃いちまいのハガキを手にすることができた。ＯＢ会の案内だ。毎年、年二回開催されている。昨年は、その秋の分を仕事の都合で欠席した。出席できれば会の仲間と一年ぶりの再会となる。どうしようかと思い悩んだ。ここ四月になってからまるで仕事がない。土日の仕事だけが頼りになっている今日この頃だ。出席すれば五月五日の八〇〇〇円が消える。が、今、この悪い時だからこそ仲間に会う必要があると思った。そしてすぐに行動した。携帯は話していた。

「こんにちは〜。ロダンです。Ｙさんお願いします。――。ああ〜Ｙさん。ロダンです。――。しばらくです。今日おハガキ受け取りました。――。ＯＢ会に出席させて下さい。――。昼食申し込みます。お願いします。――。ええ〜なんとか仕事を休ませていただいて出席したいと思います。――。ええ〜。昨年の秋は出ていないから、是非にと思っています。――。体調の方が二月三月と最悪だったのですが、最近は少し良くなってきています。――。仕事がなくていい休養をいただいています。――。心配ありません。――。ええ〜。有難うございます。――。五日は楽しみにしています。――。ハイ。では失礼します。――。」と。

これで五月五日のＯＢ会出席が決まった。後は気持ちのかわらないことを祈るばかりだ。

×××××××××

とにかく退屈だ。そうだ。五月五日のＯＢ会に出席する気持ちが変わらないようにするためにも、親しくお付合いさせていただいているＯＢ会の仲間に出席することを知らせることが必要だと思った。そして、携帯は仲間を呼んでいた。

「ロダンです。お元気ですか。」

「あぁ〜ロダン。どうも、どうも、お久し振りですネェ。」

「突然お電話したのは〜。実は。五月五日のＯＢ会の件なんですが、Ｋさんは出席されるのかなぁと思って…。」

「ええ、私は出席させていただきます。朝早く行く予定にしています。」

「そうですか。それは良かった。最近、体の調子はいかがですか。」

「おかげさまで、ボチボチといったところですネ。そうですかＯＢ会でロダンに会えるのは嬉しいなあ。」

「いえ、こちらこそ。私は9時ごろ到着するつもりです。」

「それは、それは、…あっと。ちょっと待ってネ。」

「ロダン。Ｆです。しばらくですネ。ロダンからだというものですから。お元気ですか。」

「どうも、どうも、ごぶさたしてます。今日は仕事中なんですが、今回はＯＢ会に出られそうですから、Ｋさんはどうかなぁと思って。」

「ＯＢ会でロダンに逢えると知って、ニコニコしてますョ。」

「そうですか、その後、いかがですか。」
「私は少し調子が悪くて、休んだりしながら、…なんとかですネ。」
「体だけは大切にして下さい。時間が取れれば、又、遊びに行かせていただきます。」
「ええ。また遊びにいらして下さい。」
「はい。どうも。では失礼します。」
「はい。ごめんください。」

×××××××

四月二十八日（月）平日だけど「売り出し」があるというので、土日の勤務先に出勤した。売り出し現場は東急大井町線「北千束」駅から徒歩５分。価格７９８０万円。土地４２坪。建物面積２７坪。４ＤＫ。閑静な住宅街。陽当たり良好。建て売り住宅としてはかなり広い素敵な物件だ。洗足池公園がすぐ近くにあり、緑が多く、鳥のさえずりが聞こえてくる。」
お昼は、昨日の品川区双葉町現場近くのスーパー「ダイショー」で、賞味期限が２８日のため、定価２２０円の銀座木村屋総本店製造、「さらにおいしくなりました!!ふんわりはちみつ」６個入りが１００円のを２袋買った分の１袋と、これも安売りで買ったトマトジュースで済ませた。十分にお腹の足しになった。
とにかく暇だから、１００Ｍ位で行ける洗足池に行ったり、Ｅメールをしたりしていた。
１４時３０分ころだった。一人の若い、たぶん、３０才位の男性が近づいてきて、何か建て物を見たそうにしている。あっ。これは、客だ!!　と直感して、
「こんにちは、いらっしゃいませ!!」
と声を掛けた。
「こんにちは、どうも、これ見ていいですか？」
「ええ。結構です。これに必要事項をお書きになっていただけますか。」
といって、コミュニケーションカードを手渡した。
「はい、わかりました。」

あれ、いい感じだなぁ。この仕事で記名して、必要事項を書いていただくことが大変なのに、なんと、スムーズなんだろうと思った。特に何もいわないのに、住所、氏名、年齢、電話番号、職業、収入、等、そして現在の住まい、分譲マンションに○が付いている。書き終わったのをチラッと見て、
「ありがとうございます、さっそく中をごらん下さい。」
といって、案内に立って、部屋にお通しした。お客が、アチコチ見ている間に、外に出て、すぐに営業マンにＴＥＬをした。必ず来てほしいとの願いを込めて、
「ロダンです。すぐにきてください。なんとか引き止めますから。」
その口調で営業マンも客の良し悪しがわかるようだ。
「わかりました。すぐに行きます。」
と返事があった。
ロダンは、もう一度中に入り、その客と世間話などしながら、時を過ごした。
やがて、営業マンが到着して、その客の対応をしてくれた。購入意欲は上々のようだ。１６時ごろ、その客は、営業マンの車に乗って現場を去って行った。この感じはとてつもなくいい。たぶん契約になるだろうと思った。
とにかく天気はいい。朝から雲ひとつない。青空が広がっている。
とても静かだ。少し風があって、それがとてもさわやかだ。
真向いの家の奥さんが、買い物袋をぶら下げて帰って来た。もちろん、今日が初対面だ。
「こんにちは。この現場の者です。お世話になります。」
「どうも、こんにちは。ごくろうさまです。早く売れるといいですネ」
「本当、いいとこですネ。久しぶりにいい現場に来ました。」
昔のロダンには考えられない、さりげない会話をしている。不思議なくらい変ったと思う。不必要な事は一切口にしなかったものだ。もちろん、挨拶等礼儀を失することはなかった。しかし、さりげない会話などしたことはなかった。日々の行動のなかで、川に流れる水のように、風にゆれる樹木のように。さわやかに、

そして力強く生きていられる。
百人町に移り住んで、まもなく二年になる。四月から、平日の仕事がほとんどなく、4月の実働は一〇日程だ。5月25日に受け取れる給料は8万円だ。しかし、全くあせりなどない。6月にはアパートの契約の更新があり、家賃一ヶ月分と火災保険料の費用がかかる。収入が少なくなっていることから、大家さんにお願いして、なんとか分割にしていただいた。現在の収入状況を正直に話して相談すれば、大家さんだって、ロダンを殺しはしない。たしかに日々の生活は切り詰めたものになる。土日の仕事が安定していて、最低でも8万位にはなる。この先、これ以上収入の減ることはないのだ。今、この状況をクリアできれば大きな力を得るだろう。
四月から就職活動をしていて、面接を六回経験した。不況はたしかに、暗く、深く、浸透している。いずれも不採用だった。昨年5月に就職した会社も、不況には勝てず、仕事がない。
ただ黙っていては、何も生まれてこない。結果を恐れずに行動することだ。その行動が明日への希望を培うし、飛躍をもたらす大きな力になる。無力を認めて、ハイヤーパワーを信じる事だ。そして、今日一日に感謝。

「ロマンの名は癌子」

6月5日、ガンの宣告を受けた。イカンなあ〜じゃない。胃ガンだ。かなりの確率で予測はしていた。

×××　×××　×××　×××

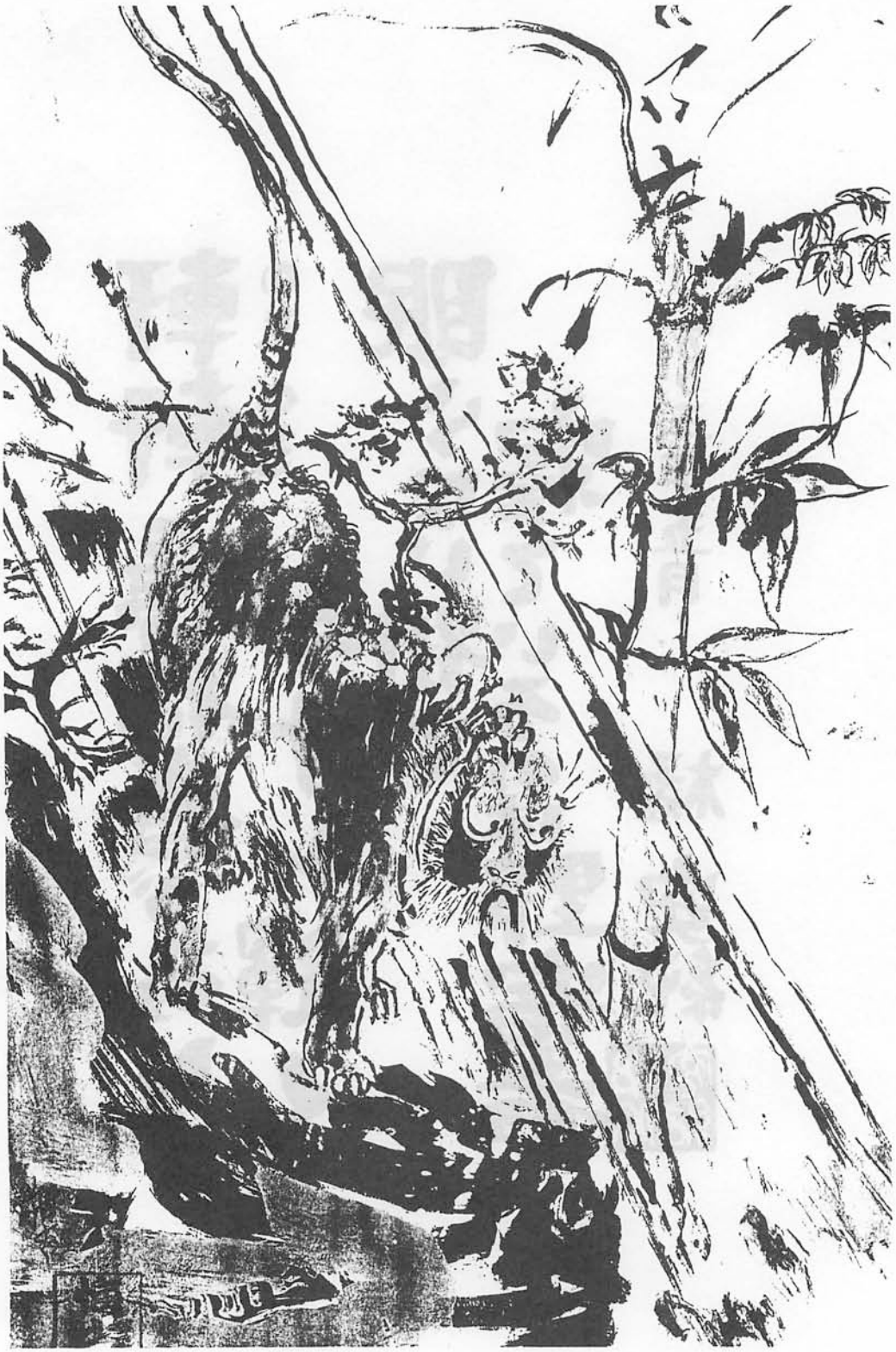
4月になってから昼間の仕事がなく、5月中はなんとかやっていけるにしても、6月からの生活はお手上げだ。
5月12日、もうこれ以上遊んではいられないと神にも祈る気持で面接に行った。
午前7時30分から、同10時30分の3時間、時給一〇〇〇円、パチンコ屋の開店前の清掃と、カプセルホテルのベットメイクの仕事だ。平日5日間働けば、4週で6万、土日と合算するとなんとか14万程になる。午後は空いているから、もっと困ったら、又、パートの仕事を探せばいい。
社長は、「明日から働いて下さい。」といってくれた。
よし、よし、これで、何とかやっていけると一安心した。
5月13日、勤務先は巣鴨駅前での仕事だった。初めての仕事だから、なかなかうまくいかない。教えられた通りに何とかやった。しかし、たった3時間の仕事なのに、終りです。今日はご苦労さんといわれた時には、ひどく疲れを感じていた。とても疲れてしまって、帰ってすぐにバタンキューだった。
どにかく金曜日までの4日間、頑張った。ヘトヘトだし、食欲はないし、体は動かないし、ホント、どうなっちゃったの？と思いながら働いていた。
朝、起きるのもやたらとつらい。夜、いつまでも、お腹がすっきりしないせいか、寝つかれないといったこともあるのだろう。
「ロダンも、とうとうヤキがまわってきたな〜。」と思っていた。
土日は、はいつくばってという感じで、やっと仕事をすることができた。
5月19日からも何とか仕事をしていた。しかし、体が悲鳴をあげはじめた。水木金と日に日に体が動かない。歩くのがやっと、そんな感じだ。考えてみれば、2月の中ごろ、急に食欲がなくなってきて、一週間で6kgも体重が減って、まともな体ではないことは察知していた。たまたま4月から土日の仕事だけでのんびりしていたから、何とか生きていたのだと思った。病気なんだと、病気なら医者に委ねるよりないじゃないか。土日に仕事をやってみて、月曜日には病院へ行こうと思った。いや、行かなければと思った。
「Yさん。病院へ行くよ。この体調の悪さは病気なんだよ。病気ならお医者さんに診てもらわなくてはねえ。もうこれ以上頑張り切れないとこまできてしまっているんだよ。白旗を上げて、月曜日には社会保険中央病院に行ってきます。」と電話していた。

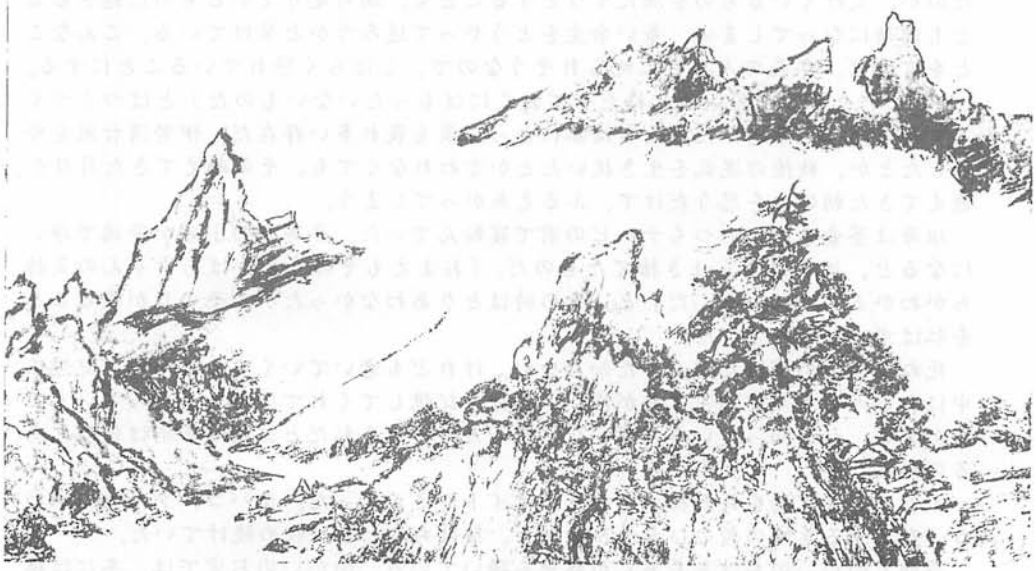
（つづく）

軒軒に野宿者があり
（のきのき）
ネオン輝く
眠らない街で
寝ているのは野宿者

二〇〇三年五月

橘 安純





悔古

あかい花

はり師いが丸

外の階段を掃いていたら、サンダルがぐらついて転げ落ちてしまった。情けないのでしばらく死んだふりをしていた。

雨の匂いを孕んだ空気は雨を生み、雨は草のにおいを誘う。湿った熱がねっとりと絡みつく。感覚器がさびついて音も色もぼやけているのに、においだけは鼻をついてくる。春のつもりでこのまま眠りをむさぼったら、身体も腐ってしまうだろうか。

希望の持ち方の法則に不具合が起きたのか、失望の法則の裏付けが進んでしまったのか、欠けているものを満たそうとすることも、満ち足りているものに飽きることも億劫になってしまい、長い余生をどうやって送ろうかと呆けている。こんなことを言えば、年長の人たちに叱られそうなので、しばらく隠れていることにする。「若さというのは、若い奴に持たせておくにはもったいないものだ」とはつくづく名言だと思う。年老いた人たちは私にとって最も畏れ多い存在だ。伊勢湾台風を経験したとか、戦後の混乱を生き抜いたとか言われなくても、その越えてきた月日を、迎えてきた朝の数を思うだけで、ふるえあがってしまう。

祖母は茶壷を枕にいつもテレビの前で寝転んでいた。年寄りの小言が発端で諍いになると、彼女はよく吐き捨てたものだ。「おまえもそのうち、ばあちゃんの気持ちがわかるようになるんだ」と。その時はとりあわなかったが、その日が来ることを私はずっと恐れていた。

死ぬことの恐怖はたぶんまだ知らない。けれども老いていくことは怖い。記憶の中にある人を失っていくことが怖い。自分を記憶してくれている人を失っていくことが怖い。私を知っている人がいなくなった時、私を私だと証明する術は何処にあるのだろうか。

インフォメ広場を毎日掃いていたのはイトウさんだった。タバコ、タバコ、タバコ…散乱する焦燥の殻のひとつひとつを、彼はちりとりに収め続けていた。

今朝も向かいのおばあちゃんが路地を掃いている。向かいのお宅では、冬には椿が、春には桜、海棠、連翹、それが終わると藤の花が咲く。初夏の訪れとともに百日紅が開き、一夏中咲き続ける。それらの花々だけでなく、春は花びらを、秋は落ち葉を集めるその音にも、私は相当依存している。

山谷では戸村牧師が毎日ホウキを握っておられた。師の言葉を私は何ひとつ知らなかったが、私はいつも緊張していた。その背中を見るたびに、気恥ずかしさと焦燥が生まれた気がする。

見続けてきた背中をひとつ失うたびに、世の中は軽くなり、私の口元はたるんでいく。

目を開けると、百日紅の葉の先端が熟していた。なまめかしく紅潮したその葉の先からは蕾が覗いている。身体はほてりも溶け出しもしない。血と水は、私の中にまだめぐり続けているらしいので起き上がることにした。

おきなわ旅日記

～旅の終わりに～　恩田美代子

いよいよ帰京の日。早く帰りたいような帰りたくないような。那覇の市場で、二晩過ごすことになる船内での食料を買い込み、夕方乗船。一晩目は彗星も見えるほどの晴天で、二晩目は大雨で揺れる揺れる。一人旅で船の中、特に娯楽も無く話し相手も居ない場合どうするか？私の場合は、ただただ考える。

旅の間、人から何か恩を受けた時、私いっつも相手の顔色を伺ってしまう。自分はどう見られているんだろうって。そんな私の様子を不審に思った相手はちょっと変な表情になる。都会病なのかな？都会は仮面をかぶってないと、生きていかれないのかな？こういう不自然な関わり方って、いつか疲れて嫌になるだろうな。東京の電車もう乗りたくないな。たくさんの仮面人間の乗っている電車には。電車だけを取っても、東京は異常な世界だよ。個を尊重する東京と、絆の強い沖縄がうまく溶け合っているような場所が何処かにあるといいんだけど。それにしても、沖縄は他者を受け入れる包容力がある。海が近いせいかな。よし、決めた！東京に絶望したら沖縄に行こう！沖縄は必ず私を迎え入れてくれるはず。

コンクリートだけの、土も緑もない灰色の晴海港に到着！おしまい！

次号26号は9月1日発行予定です。
熱い表現大歓迎！夏季号となります。
投稿者の皆さん、原稿締めきりは
8月3日必着にてお願いします！

編集後記

瞬く間に初夏を感じる季節となりました。道ばたのあじさいの淡い色に少し心を和ませつつ歩く日々です。露宿発行の頃にはあじさいの露も乾いて、いざ夏へ一。どうか露宿が皆様にとって、暑き夏の一滴の清涼剤となっていただけますよう。えっ？暑くなるばかり？それもよしとして、粋な夏を！（お）

露宿ペン倶楽部短信

ろじゅく編集室が池袋から新宿に引っ越しました。とあるNPO事務所の片隅に入れてもらいました。郵送先、FAX番号が変わりましたのでご注意下さいませ。

露宿もついに25号！まるまる４年間休みなく発刊し続けてきました。嬉しいやらゾッとするやら。関係者の皆さま方には本当にいろいろご苦労をかけています。けれど路上や路上に心を寄せる仲間の唯一の表現手段としてお陰様で定着しつつあります。露宿を読みたかったら新宿のごみ箱(?)を漁れ！仲間の雑誌は路上に有り！

Rojuku

「ろじゅく」

定期購読大募集

[露宿定期購読の御案内]

毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読８回分　5000円（郵送費込み）

定期購読４回分　2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。

一冊は送料込みで660円となります。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

２冊以上は送料無料、５冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

購読費・スポンサー費
送り先
郵便振替口座
00160-6-190947
「ろじゅく編集室」

露宿バックナンバー有ります。

露宿バックナンバーは創刊号から（2号、4号、18号は売切です）在庫があります。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

露宿　ＲＯＪＵＫＵはココで買えます。

◆模索舎　東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 **◆TACO ché**　東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ３階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 **◆スペースかぼす**　東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 **◆新宿中央公園ポケットパーク**（毎日曜午後6時から8時まで）TEL090-3818-3450 **◆石手寺**　愛媛県松山市石手2-9-21　TEL 089-977-0870 **◆ぐりん・ぴいす** 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿（ROJUKU)」第25号　2003年7月1日発行（隔月刊）
主宰・笠井和明　編集 /発行・ろじゅく編集室　〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-32-4-603
TEL／FAX 03-3373-9878／090-3818-3450（笠井）
Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp　URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/
郵便振替口座　00160-6-190947　加入者名「ろじゅく編集室」
販売協力・新宿連絡会、露宿ペン倶楽部　　印刷・株式会社ラジオグラフィー